

3	<p>○学校運営協議会を含め保護者のみならず地域の方々に学校や行事の公開や参加機会を増やす。</p> <p>○学校だより等で様子を伝えている。児童や保護者のコメント等を掲載する学年もある。</p> <p>▲地域間のつながりの希薄さを感じるケースがある。学校をもとにしたつながり作りを進めたい。</p>	<p>開かれた学校づくり (家庭・地域に見える取組)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や学校の教育活動を積極的に見えていただく機会を増やすと同時に、学校応援団等での保護者・地域との関わりを増やす。 ・学校行事を公開し児童の活動の様子を参観していただく。 ・PTA行事等を含め積極的に家庭との連携を図り、協力態勢を構築する。 ・保護者の意見には傾聴し、迅速な対応、保護者や児童に寄り添った指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価に関わるアンケートで積極的に「情報公開している」の項目の90%にする。 ・学校公開や授業参観等の機会を活用し、保護者間で意見交換やコミュニケーションを取る機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報公開」の項目は全学年で概ね90%を超えている。 ・学校行事や芸術鑑賞教室等保護者に公開する機会がコロナ前に戻ってきている。地域への公開は学校公開と運動会と限られているので、地域を学ぶ学習の機会を増やしていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、保護者・地域への公開機会を検討するとともに高等学校や中学校との交流機会を増やしていく。 ・総合的な学習の時間での年間指導計画の中に取り入れる。 	<p>学校だよりや、すぐるを利用し、また学校公開など積極的に取り組み成果を上げている。地域学習を進める上で、教師が郷土を知る取組も必要と思われる。</p> <p>地域を学ぶ機会が大人も子供もあるとよい。</p> <p>異校種連携については更に互いの成長につながるようしていきたい。</p> <p>情報公開や学校公開に関心のある保護者や地域の方々には、学校の様子は十分伝わっていると思います。引き続き「開かれた学校づくり」への取組を期待しますが、教育活動の負担にならないよう配慮も望みます。地域間のつながりの希薄さは児童、学校ばかりでなく大人にも、ここ10～20年感じています。大人から地域の行事や活動に参加してもらえば児童にもつながると思うのですが・・・なかなか難しい問題ですね。</p>
---	--	------------------------------------	--	---	---	---	--	--

○印：成果と思われること ▲印：課題と思われること

家庭学習の必要性

2020年3月に文部科学省から公示された「家庭ではぐくむ「生きる力」」では、「家庭教育は全ての教育の出発点です。子どもに基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るなど「生きる力」の基礎的な資質や能力は、家庭において培っていただくことが大切です。」と述べられています。家庭教育、家庭学習は学校教育の前提となっています。

勉強の場は学校が中心となります。教室の子供たち一人一人が学習を習得するのに必要な時間には、もちろん個人差がありますが、学校では学習内容が多く授業時数も限られています。繰り返し学習の時間にたくさんの時間を設けにくいのが現状です。人は授業で学習したことは時間の経過とともに忘れていくし、1度や2度聞いただけで内容を完全に理解するというのはなかなか難しいものです。そのため、家庭と学校の両方を学びの場とし、学習内容を定着させることが必要になります。漢字の学習や音読、かけ算九九など繰り返すことで定着する代表格です。

特に低学年のときの「音読」では、一文字一文字の拾い読みから、繰り返し課程で単語や文の意味を理解し、文が伝えようとしていることが分かるようになります。「音読をやったふり」をすることで、文章が読めないまま次学年に進むことにつながってしまいます。算数の足し算・引き算の繰り上がりや繰り下がり、かけ算九九なども同じで、九九が定着していないと、割り算もできません。基本の四則計算ができなければ、さらに上の学年に進むにつれて、ますますわからなくなってしまいます。

人は「忘れる」ものです。スポーツ選手が練習を繰り返し技能など習得するように、勉強も繰り返しが必要です。授業中は「わかったつもり」はずだったのに、テストになるとできないことが多々あります。「わかったつもり」と「本当にわかった」とは違うからです。

聞いたことは忘れ、見たことは覚え、行ったことは理解する「本当にわかった」になるには、学習後復習し、自分の力でくり返しやってみる必要があります。ご家庭で、子供たちが自分の力で解けているか見届けることで、本当にわかっているのか確認することができます。

挨拶 ～大人が口にしない挨拶は覚えにくい～

「挨拶は、まわりの大人を見ながら学んでいくもの」と言われています。まわりの大人があまり口にしない挨拶は、子供も「いつ、どこで」「なんのために」する挨拶なのかよくわからないのではないのでしょうか。

毎年交通指導員さんから「通学班の班長がしっかり挨拶できる班の子たちは、挨拶ができますね。」と言われます。子供同士でも、先輩の様子が大きく影響しているようです。私が子育て中に子供の保育園の先生に教えてもらった、挨拶ができるようになる3つのポイントがありました。

- ①「親が楽しそうに挨拶する」
- ②「最初に子供の名前を付けて挨拶する」
- ③「子供に挨拶されたときに気持ちいいねなど感じたことを言葉にする」です。

挨拶は楽しく、気持ちのよいことと感じさせることが、子供に挨拶を身に付けさせるポイントなのだと思います。人生を豊かにするきっかけにもなる挨拶。学校だけでも、家庭だけでもなかなか身に付くことではないようです。ご家庭と学校の両輪で進めていくことが、「挨拶のできる子」を育てる上では大切なことと考えております。